

春から始める社労士受験！ 一発合格必勝法

TAC社会保険労務士講座 講師 武田 暁

1

I ・ 社労士試験学習に向けて 1. 早期学習のメリット

2027年8月22日の合格へ向けて、これから学習を始める

早期学習のメリット

- ・ 計画的な学習習慣を身につけることができる
- ・ 段階的な学習スケジュールが組める
- ・ 学習途中でのリカバリーが可能

最大のメリット

約1年間超の学習をしたことが、本試験への自信になる
⇒試験合格者は自信を持って試験へ臨む
合格後も社労士学習をきちんとしたと言える
⇒合格した資格に自信が持てる

自信の根拠はしっかりとした学習

2

I ・ 社労士試験学習に向けて

2.社労士試験は初学者に不利か

強み

- ・ 先入観がない
- ・ 苦手や癖がない
- ・ 試験に落ちてない

弱み

- ・ 学習経験不足
- ・ 全体像が分からない
- ・ 諦めやすい

初学者は受験経験者に対してスタート時は劣勢
ただし、学習をすることで追いつくことが可能であり、
試験に対してのメンタル部分では優位（強み）である

3

I ・ 社労士試験学習に向けて

3.試験の傾向（過去5年の推移）

	R3	R4	R5	R6	R7
申込者数	50,433	52,251	53,292	53,707	53,618
受験者数	37,306	40,633	42,741	43,174	43,421
受験率	74.0%	77.8%	80.2%	80.4%	81.0%
合格率	7.9%	5.3%	6.4%	6.9%	5.5%

受験率が近年アップしている
※税理士・司法書士に近づいている

4

I ・ 社労士試験学習に向けて

4.合格へ目標を持つ

目的：社会保険労務士試験合格（資格を取得する）

目標：試験の点数（合格点数を獲る）

試験は目標の点数を定めてそれに向けて学習するのが大切です

どんな成果を得るかを決定し（**得点**）

それを達成するために投入する（**学習時間**）

自分はどんな学習の成果を求めるのか（**何点獲得するのか**）

目標を持つには全体像を掴まなくてははいけない

5

I ・ 社労士試験学習に向けて

5.学習は段階的に

社労士試験の特徴は科目が多いことです

初学者は学習が延々と続き、終らない道に思えます

先ずは全体像を把握することが大切です

一見するとバラバラな試験科目は実は繋がっています

そこが分かれば理解はしやすくなります

又、試験には知識だけでなく試験対策も必要です

知って

覚えて

使って

6

総合本科生Wide

対象：総合本科生Wide受講生

要件：基礎マスター講座から総合本科生を受講して

効果：2027年社労士合格を目指す

余裕ある学習スタートで合格に必要な力が着実に身に付く初学者コースの決定版。初学者向けの「基礎マスター講義」で、最初に基礎知識を学べます。さらに「基礎マスター」と「基本講義」で主要科目を2回転学習できるのが最大の強み。早期より強固な基礎力を習得することができます
TACのホームページより

7

Ⅱ・一発合格学習方法

1.学習ステージ

学習期間を3つのステージに分ける

①基礎学習（学習脳づくり）

2026年4月～2026年9月：基礎学習期（基礎マスター）

②基本学習（知識の定着）

2026年9月～2027年4月：基本学習期（総合本科）

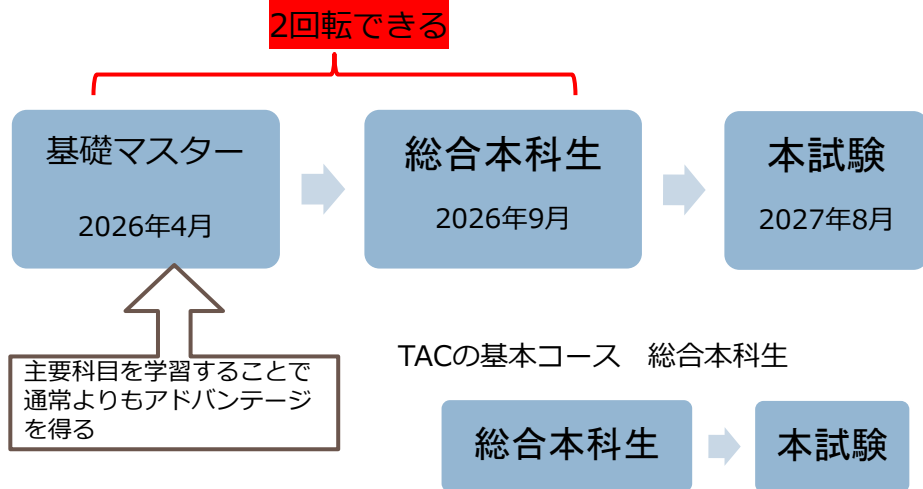
③直前学習（点数を獲る訓練）

2027年5月～2027年8月：直前学習（直前編）

各ステージでの目的は異なります

8

総合本科生Wideの流れ



9

知らないものは怖い

マラソンでコースを知らない不安です
この先はどうなっているのだろう？
学習でも、全体像が分からないのは不安があって当然
目標点数を定めることも無理です

まず、やる内容を知って学習をする、これが大切です

本格的学習の前にやる内容を**知ることが有効**です
受験経験者は知ってるけど、初学者は分からないから不利？

10

2回転は有利なのか？？？

低合格率（5～6%）ということは
複数回受験者も多数いる（3回以上受験者も多い）

そんな状況で2回転が有利なのか？？？

実は受験回数では2回は少ないほうです

2回転（基礎マスター受講）をアドバンテージ
とするための**学習が必要**

11

Ⅱ・一発合格学習方法

2.基礎マスターコースの2回転

主要科目を学習して、秋からの総合本科生に備える

2回転するから、経験者と同じ体験ができる

かつ

単純に2回転でなく、段階学習でステップアップをします

基礎マスターから総合本科へランクアップして繋がります

基礎マスター
主要科目1回目



総合本科生
2回目

12

通常の複数受験（点での学習）



単年ごとに学習をしている
それぞれが繋がっていない
知識量は深まるが、覚えているだけ
1年目と2年目、3年目で**同じ勉強をしている**

13

基礎マスター受講（線としての複数年学習）

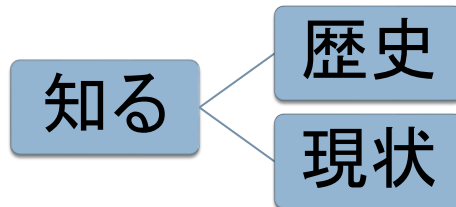


各ステージごとに**目的を持った学習**をすることが
結果的に最短での合格へ繋げる

14

基礎マスターの意義

いきなり、**覚える学習をするのではなく**
初学者でも社会保険制度の概要を**知ることを目的**とします
通常の学習では出来ない部分となります



15

Ⅱ・一発合格学習方法 3.基礎学習のテーマ（1回転）

- 1日又は1週間の中で定期的な学習習慣を作る
- 試験科目の全体像を知る（**知ることに注力**）
- 自分の得意・興味のある分野を見つける
- 用語や言い回しになれる

全体像が分からなければ学習が不安
どんな内容か知っていれば、後の学習に余裕ができる
試験を点を獲ることが合格の秘訣
得意科目は必須です

16

Ⅱ・一発合格学習方法

4.基本学習のテーマ（2回転）

知識をしっかりと定着させ、全体の学習をしっかりと終わらせる

- 暗記でなく内容の理解に努める（**理解**に注力）
- 問題演習を積極的に行う（特に過去問）ただし、○×にこだわらず、その問題のポイントを掴む
- 一つの科目に執着せず、計画に沿って学習を進める

覚えることは**とき**が解決します
覚えられないのは内容が理解出来ないから
学習は前へ進むことが大切です
全体を学習して分かることがあります

17

Ⅱ・一発合格学習方法

5.直前学習のテーマ（仕上げ）

本点数を獲得するための学習を行なう

- 問題演習を繰り返す（五肢択一、選択式問題）
- 点数を獲得するための問題演習を行う（**点数**に注力）
- 法改正のチェック

試験は点取りゲームです
知識があっても正解しなければダメ
正解を獲得するための訓練が必要です

18

Ⅲ・社労士試験の概要

1.出題形式

19

択一式

- 労基（7問） 安衛 （3問） 10問
- 労災（7問） 徴収法（3問） 10問
- 雇用（7問） 徴収法（3問） 10問
- 一般常識
（労一（5問） 社一（5問）） 10問
- 健保 10問
- 厚年 10問
- 国年 10問

合計 70問 【70点】

合格基準（R7年度）

総得点42点以上かつ各科目4点以上
雇用・徴収は3点以上

選択式

- 労基（3問） 安衛 （2問） 5問
- 労災 5問
- 雇用 5問
- 労一 5問
- 社一 5問
- 健保 5問
- 厚年 5問
- 国年 5問

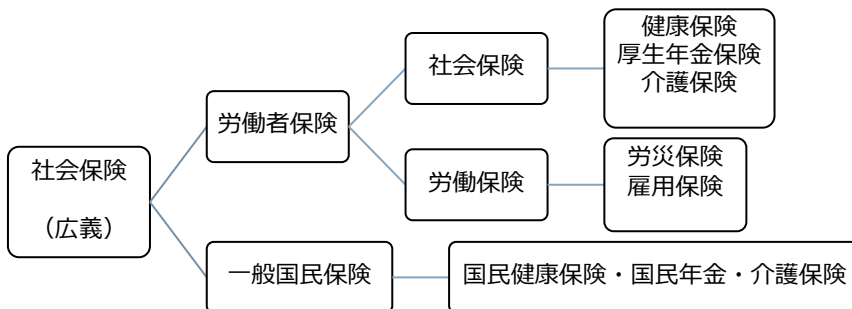
合計 40問 【40点】

合格基準【R7年度】

総得点22点以上かつ各科目3点以上
労災・労一・社一各2点以上

19

社会保険制度



社会保険制度 = 社会保険労務士の試験範囲

⇒社会保険労務士とは社会保険のプロフェッショナル

20

社会保険制度を理解するには

社会保険は、繋がっています
(関連があります)

知識をバラバラで覚えるのでなく、
繋ぎ合わせることで
定着や応用ができるようになります



21

Ⅲ・社労士試験の概要 2.試験問題の傾向

近年の傾向

- 問題が難化
- 出題形式の多様化
- 問題文の長文化
- 判例・事例問題の出題

なぜか？

出題者心理考察

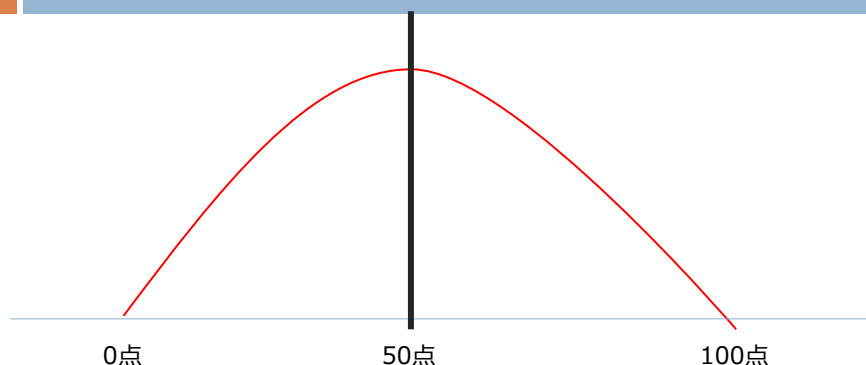
- 点数分布を5割付近へ
- 単純な過去問のコピーは×
- 読解力・理解力を問う
- 落とす試験である



22

Ⅲ・社労士試験の概要

3.作問者の意図



中央値に最多の人数になるような点数分布が理想
そのために、出題に工夫している
単純な過去問の焼き直しは減少しているが
論点は変わらない

法律の趣旨が変わらなければ、論点は変わりません

23

Ⅳ・合格への道

2.基礎マスター講義の活用

社労士試験は範囲が多岐にわたります

直接の試験科目ではありませんが、憲法・民法等の知識も必要

本格的学習の前にまずは全体を見るのが有効です

(社労士試験の範囲を知る)

秋からの総合本科に備えるのが基礎マスター講義です

法律用語や経済用語等も学べます

本格的な学習前に十分な準備を
して来年の合格へ繋げましょう



24